

氏 名： 浅利絵里子

1. 今回の研修参加に際して、主眼をおいた点

- ・個人の観光では知ることのできないタンザニアを知る。(学校教育、病院の内部事情、ビジネス)
- ・現地の人達が日本人の来訪をどう思っているのか、本音を知る。
- ・現地の大人、子供が、教育を重要視しているのか、教育をどう考えているのか、勉強は好きかを知る。
- ・教育のレベルを知る。教科書の内容、質は日本と比べてどうか。習熟度はいかほどか。授業態度はどうか。日本で扱う専門分野の問いかけにどれだけ解答出来るか。
- ・アフリカの子供たちの目は、本当にキラキラしているのか。子供たちの中身を感じてくる。

2. 海外研修を通して参考になったこと、疑問に思ったこと

- ・タンザニアを「途上国」と呼んで良いのだろうか。途上国という言葉に、「貧困に苦しみ、助けを要する国」というイメージを持っていたが、人々は苦しむどころか、日本人よりはるかに幸福感をもち生活をしている。日本の高度経済成長期に似ているという。タンザニアの向かう未来が、現在の日本の精神状態なのだとすると、良いのか悪いのか考えてしまう。
- ・地球上のどこかで、日本の過去と未来を見ることが出来るのかもしれない。
- ・「支援」とは、与えることではなく、寄り添うこと。特別支援学校での「支援」はもともとその意味。

3. 教育指導への活用について考えたこと

- ・他者を理解しようとすることで、自分が浮き彫りになり、自己理解につながる。しかし、その理解は自分の目を通したものであり、観測者が誰であるかによって、まったく違う理解につながる。今回の研修で私が感じ、得たものは、全て私の目を通したものであり、それもタンザニアという国の一部にすぎない。しかし、それらを踏まえたうえで、一部を見た私が、どのようにタンザニアという国を解釈し、日本をどう感じたかをシェアして、自分の目で見る大切さを伝えることが、教育現場で特に役立つことでないかと思う。是非、あなたの目でも見て感じてほしい。きっと私と違う発見や考えが生じるだろう。
- ・タンザニアに住む仲間は、どのような教育を受けて、どのような夢や考えをもって勉強しているのかを伝えることは、日本の生徒が勉強する上での内的動機づけになると思う。タンザニアは「私の宝物は教育」と子供が答える国であり、教育レベルも決して低くないという印象を受けた。向学心の圧倒的な高さにも驚いた。言語としては、スワヒリ語と英語を話すのがスタンダードであり、両方の言語で瞬時に話し、書きとることができる。日本と比べてどうであろう。私が出会ったタンザニアは、「教育が世界を変える」と子供も大人も言う国であった。
- ・人と人との距離の取り方についても参考になる。日本の文化圏とは違う歩み寄りがある。同行した仲間の中からは、日本に帰ってきてからも周囲の人とコミュニケーションをとりたくなくなる衝動にかられ、自身に驚くという話があがった。知らずのうちに心が解放されたのだろうか、タンザニアの人のあり方はそのような具合である。

4. 研修に関する全般的な所感・意見

・様々な概念がひっくり返るような経験ができたことに感謝している。帰国後は、日々海外研修で感じてきた内容が咀嚼されているのを感じている。自身の中での価値観が整理されている最中である。私は、日本の文化を誇りに思ってきたが、同時に日本という色眼鏡で世界を見ていたことに気づかされた。他国に生まれた人も同様に、その国の色眼鏡で、世界を見ているのだろう。その人を取り巻く文化が、人格形成や感情形成に大きく関わっている。私の持つ、日本の色眼鏡が全て外れた時、すべてのものがニュートラルで、そこに善悪はない気がする。どこに向かいたいのか、向かいたい先は人それぞれ違い、国でそれぞれ違いうだろうから、支援の在り方に簡単に正解はない。「支援」とは、与えることではなく、寄り添うことという立場に立てば、タンザニア人の一人の友人として共にある中で、お互いに支え合う場面が出てくるのではないかと思う。

・人と自分の「当たり前」は違うが、日本国内にしていると忘れてしまいがちなものを、異国と比べることでまざまざと感じられた。共に現地へ向かう教員仲間は、校種や分野が違い、意見や視点の違いがあった。そのような仲間と異国の文化を題材に感じたことを遠慮なく話し合えたことも、財産であった。

・日本の教育現場や医療現場の就業環境についても、これでよいのかと考えさせられた。

・事前研修で開発教育やSDGsという言葉を教えてもらっていたのが良かった。支援の現場を視察することで、これらの言葉がより意味のあるものになった。

・教員がこのような体験をし、新たな価値観を持つことは、様々な形で生徒に反映されてくると思う。多くの教員に、このような研修の機会があればよいと思った。

・つらつらと述べているが、これらは全て現段階で考え付くことであり、この後どのように経験したことが落ち着いていくのか、私自身について未知数であり楽しみである。それだけ、個人的に大きな変化をもたらしてくれた研修であった。半年後に同様の問いかけをしたら、自分がどう答えるのか楽しみである。

・生徒や同僚に、何をどうシェアしたら伝わるのか、正直なところ手探りである。結局行きつく私の想いは、「自分の心で感じてほしい」ということで、自分の目で理解しようと思う人があらわれたら、十分役割を果たしているのかもしれない。

5. 今後の研修参加者へのアドバイス

①体調管理が何より大事。現地の食事を楽しむのも良いが、自分の体調を維持するための補食があると良い。使わなければ、現地の人や現地の隊員にプレゼントすると喜ばれる。

車内の冷房5時間で風邪を引き、熱が出た。持って行ったポカリスエット粉末がとても役に立った。

②蚊・蠅には、日本の蚊取り線香がとても効果があった。

③小学生を相手にするなら、物を使わないジェスチャーゲームを用意しておく、楽しいアイスブレイクになる。ジャンケンのような文化がない国もある。(ゲーチョキパーの歌は好評)(折り紙と一緒に体験するには、人数の制限が必要。子供たちの年齢によっては、折り紙の取り合いからケンカが起こる)

④日本の教室の風景、生徒の写真は、とても喜ばれる。